

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R2. 5. 7

## 【ピンチをチャンスに! 今が転機の時】 校長 宮地敏彦

新型コロナとの戦いで臨時休校となり2ヶ月が過ぎました。5月末までの延長が決定し、私たちの自粛生活はさらに1ヶ月は続きます。子どもたちの自粛疲れはもちろんのこと、保護者の皆様も家族のお世話や仕事・外出の制限等で大変苦しい日々を過ごしておられることと思います。そんな日々の中でも、朝に校区を巡回していると、親子で散歩する姿や家の前で体力トレーニングに汗を流す姿、家族の洗濯物を干す姿やゴミをステーションに運ぶ姿等、それぞれに笑顔で頑張っている児童の姿を目にします。ご家族で工夫して、休校期間中の家庭生活を充実させようとしてくださっていることに敬意と感謝を申し上げます。



<ステイホーム!セーブライフ!>

学校現場では、県の非常事態宣言の発令から休校の決定、そして休校の延長、再延長と繰り返されるたびに、臨時校長会でその対応（学習課題の提供や見届け方、生活面での助言内容、学校再開後の留意事項や学校行事の実施について等）について協議し、決定したことをもとにすぐに各学校での職員会議を設けるという流れを繰り返しています。まさしく“朝令暮改”、前日決定したことをすぐ次の日には変更しなければならないという状況があります。

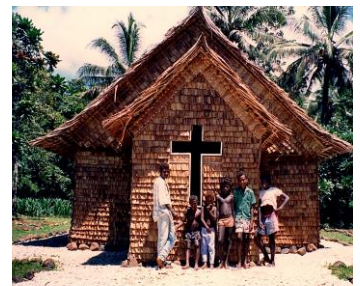
日本中が命と生活を守るために、知恵と力と思いを尽くして取り組む中で、いろいろなことが考え出されています。「オンライン学習」、「テレビ会議システム」「9月入学制」などもその一つです。歴史上、人の世は困難や苦難に直面し、それを乗り越えようとするときに、様々な技術やシステムが進化し、新しい文化や生活スタイルが生まれます。今まさに日本は、そして教育のあり方は大きな転機をむかえていると考えられます。この期間、いつも以上にお父さんと遊ぶことができたり、お母さんと台所に立ったり、家族で勉強を教え合ったりするなど、家族がふれあう時間が増えたことは、日本がなくなっていたものへの“気づき”をもたらしてくれたような気がします。新しい技術やシステムが求められる一方で、古き良き日本の家族のあり方を実感できているとも言えるのではないのでしょうか。

4月30日に新旧お二人のPTA会長さんと、今後の学校行事やPTA活動の行い方、学校生活における児童の安全確保のための配慮と学習指導等について協議しました。最も大切なことは学力の維持・向上であり、授業を充実させることが最優先されるべきであることを共通理解しました。苦しいときではありますが、そんな中でも楽しみや喜びを見つけ、笑顔を失わないように頑張りましょう。

## 【笑顔の大切さ ～ソロモン諸島体験記①～】

昨年6月の“ひびき”で「途上国に学ぶ」という記事を掲載したところ、保護者の方から『もう少し話を聞きたい。』というお声をいただきました。途上国の暮らしには、私たちが現代を生き抜くための知恵や幸せにつながる価値観などがあるとおもいます。今年度は紙面の許す限りシリーズで載せさせていただきたいと思います。

ある日、ソロモンを大型の台風が襲いました。被害は大きく多くの島で家々が倒壊し、村は壊滅状態となりました。被害に遭った島々には生徒達の実家もあるため、村を訪れて声をかけると村人からこんな言葉が返ってきました。『ソロモンの家はほとんど（ヤシとバナナの）葉っぱでできているから、壊れてもまたすぐに作り直すだけさ。（笑）』平時でも、いつも明るく笑顔を絶やさないソロモンの人たちですが、悲惨に見える光景の中でその笑顔はいつそう輝いて見えました。また別の人は、『神様はいつも私たちに、食べ物・健康・家族の幸せなど多くの恵みを与えてくれている。私たちは時には試練も受けるべきだろう。』と言いました。（後にこれは聖書の言葉だとわかりました。）彼らのもつ明るさや謙遜さ、そしてたくましさの根底には、神を信じる信仰心があることを実感しました。果たして、どこの村もみんな力を合わせて見事に村を立て直しました。笑顔は力の源ですね。



<村の小学校の礼拝堂>